

横手高等学校（定時制課程）青雲館 中期ビジョン（5か年計画）

(1) 「本校が目指す姿」

●目指す学校像（本校の存在意義、社会的役割、教育目標）

「一人ひとりの成長の支援と社会性の育成」

～深い理解と見守る温かい目、社会につなげる丁寧な指導～

① 学校の現状や課題

○現状

青雲館は、さまざまな学習歴をもつ生徒や働きながら学ぶ生徒のために、2部制（Ⅰ部、Ⅱ部）、単位制、2学期制などを取り入れて学びの場を提供している定時制高校である。入学後は少人数のクラス編成の中で、多くの生徒が元気に学校生活を送っている。また、2部制を活用した三修制を選択して、3年間での卒業を目指すことも可能である。

青雲館はさらに、中学生等を対象としたフリースクールの空間『スペース・イオよこて』の機能をもつとともに、秋田明德館高校通信制の協力校としてスクーリングを行う県南地区における定時制基幹校としても大きな役割を担っている。また、学校設定科目「コミュニケーション基礎」を開設し、発達障害等がある定時制の生徒を対象に通級による指導を行っている。

青雲館は、授業や部活動などの学校で行う教育活動に加え、インターンシップ、職場見学、ボランティア活動などの校外での諸活動を通じて、生徒の総合的な人間力を育み、将来の社会の形成者を育成する使命を果たそうと、効果的な指導法の確立に努めている。

<部活動の実績>

- R 4 全国定通総体：バドミントン部・剣道部・卓球部・陸上部競技出場、  
剣道男子個人準優勝
- R 5 全国定通総体：バドミントン部・剣道部・卓球部・陸上競技部出場、  
剣道男子個人準優勝
- R 6 全国定通総体：バドミントン部・剣道部・卓球部・陸上競技部出場、
- R 7 全国定通総体：バドミントン部・剣道部・卓球部・陸上競技部出場、

<国公立大学実績>

山形大学、福島大学、鳥取環境大学（H27） 山梨県立大学（H30）

<卒業者>

卒業年度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
三修卒業者	16名	21名	16名	15名	10名	14名
四修卒業者	14名	23名	10名	5名	15名	12名

○課題

本校は様々な事情で学校を続けることが困難な生徒に対しても、一人ひとりが自分のペースで学習できるように支援している。また、学び直すために転編入する生徒のことを考え、授業は基本的な内容が中心となっている。国公立大学への進学希望者もおり、進路志望に応じた指導体制の確立を目指している。

## ② 学校を取り巻く将来の状況の予測

県南地区の中学卒業生数は減少しているが、第七次高等学校総合整備計画後期計画に示されているように、多様な学びを支援する定時制課程への理解が広がれば、青雲館への教育ニーズが着実に高まると確信している。青雲館は、今後も一人ひとりを大切に育て、社会へと結びつける使命を果たして行く必要がある。

## ③ スクール・ポリシー

### (i) グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

「自己と社会の未来を切り拓く人材」を目指し、社会で必要とされる資質・能力の育成のために、次の具体的な手立てを講じる。

#### 1) 規律ある生活

端正な服装、爽やかな挨拶、公共ルールの遵守等も含めて、規律ある生活を通して地域や社会に信頼される人材の育成を図る。

#### 2) 知的好奇心を刺激し、生徒が成長の手応えを感じられる授業

生徒が様々なことに興味を持ち、疑問を持ったことは自分で考える習慣を身につけさせるために、授業においても生徒の興味を引きつける題材を提示し、主体的な対話的な学習を行って思考を深めさせる。適切なフィードバックによって生徒に自分の力が伸びていることを実感させる。

#### 3) 生徒会活動・部活動の活性化

生徒会行事を主体的に運営したり、部活動・ボランティア活動に取り組むなど、多くの方々と協働する活動を奨励し、自己肯定感や自己有用感を育てる。

#### 4) キャリア教育の推進

外部人材の講話やインターシップやアルバイト等を通じて、社会の一員としての自覚を植え付け、自己の将来について考えさせるとともに、コミュニケーション能力や自他の理解能力を高める。

#### 5) 人間尊重の精神及び公共の精神の涵養社会性の育成

学校生活のあらゆる場面を通して、生命や人権の大切さを教え、多様な価値観を認める寛容さと、社会の一員として求められる公共の精神の育成する。

### (ii) カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

全ての教育活動において「チャレンジ精神の育成」を念頭に置き、これを通して、先行き不透明な時代に挑戦し、人格の完成と進路目標達成を含めた自己実現を支援するための教育活動を展開する。

### (iii) アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

1 自主的、自律的に基本的生活習慣の確立に努める生徒。

2 目的意識をもって、学習や資格取得に向け積極的に取り組む生徒。

3 特別教育活動に意欲的に取り組み、他者と協力し、努力し、自己啓発に努める生徒。

## (2) 「5年間を通しての具体的な目標と取組」

### ① 5年間を通しての具体的な目標

- ・生徒が希望する進路達成を見据え、個々に応じた学習指導の充実を図る。
- ・ホームルーム活動や学校行事、部活動等を通して、生徒の個性や能力を伸ばすとともに自己指導力の育成を目指す。
- ・地域社会との関わりを通して、地域への愛着や関心を深め、自己肯定感の向上を目指す。

### ② 目標を達成するための具体的な方法、取組等

学習指導	基礎学力の定着	学び直しとして、選択科目群に基礎講座を設ける。また、授業においても基礎基本の定着を大切にする。
	授業のUD	ユニバーサルデザイン（UD）を意識した授業を行う。学び合い、教え合い、話し合いの場面を意識した授業展開の工夫を行う。
	選択授業	クラス一斉授業のほか、興味・関心や進路希望に応じて履修できる多くの選択授業を開設する。選択前に履修説明会を行い、各科目がどのような授業かを丁寧に説明する。
	個別指導の充実	進路目標、資格取得に応じた個別指導を行う。
	資格取得の奨励	資格取得（漢字検定、英語検定、簿記実務検定、情報処理検定、ビジネス文書実務検定、ビジネス計算実務検定、危険物取扱者、等）を奨励し、難易度により卒業に必要な単位に加える。
特別活動等	LHR	新聞を活用した進路スクラップを行い、進路意識を高める。
	学校行事	学校祭、防災・避難所開設訓練、クラスマッチ、なべっこ、百人一首大会やかまくら体験等、仲間や多くの人々と協力して取り組む喜びや達成感を実感できる行事を行う。
	部活動	自信を深め、仲間の大切さを知り、人と関わることの意義深さを学ぶ機会として、部や同好会の活動を推奨する。
地域連携等	防災・避難所開設訓練	地域住民、横手市危機管理課、横手市消防署、JR横手駅、秋田大学横手分校、民間企業など多くの方々から協力をいただきながら、生徒が主体的に運営できるよう取り組む。
	ボランティア	横手市地域づくり推進課、県南NPOセンター、秋田大学横手分校等と協力して、生徒に様々なボランティア活動を紹介する。

#### 青雲館の教育 イメージ全体図



